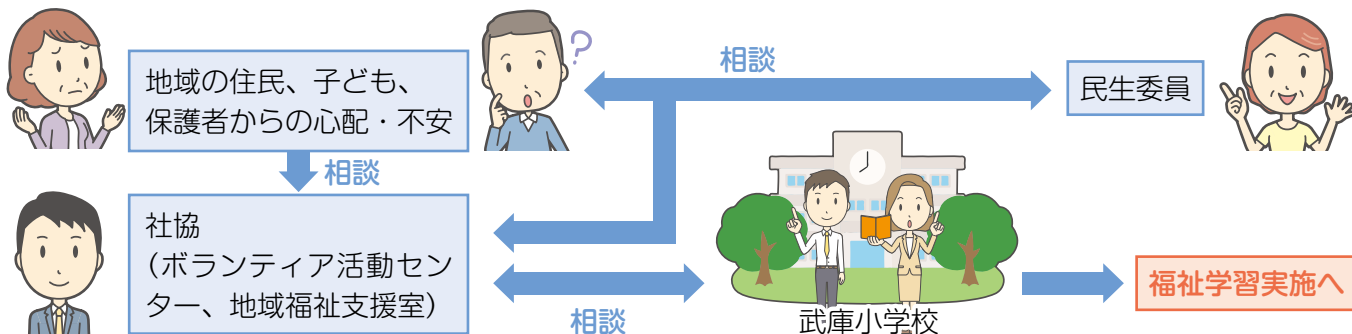


地域共生社会につながる福祉学習の取り組み

校区内のできごとをきっかけに、武庫小学校では知的障害について学び、体感し、当事者との出会いと交流を通じた「互いに知り合う」福祉学習が行われました。



地域からの心配や不安を地域の民生委員や小学校、社協で共有し、話し合いを重ねました。そこで、知的障害への理解は、地域に住まう子どもの教育にとって大切との共有が図られ、すでに行っていた福祉学習に加えて知的障害についての福祉学習を実施されました。

当日は「さんだ知的障害啓発隊 はぁ～とポケット」による知的障害の疑似体験と近隣に住む当事者との交流を行いました。



学習スタート♪



当事者の方からのあいさつ!



レクリエーションで楽しく交流♪

参加者の声

何か苦手なことがあれば、「早くして」とかじゃなくて、「がんばれ」などといえればいいとわかりました。人と違って、それは個性だということがわかりました。

児童



当事者の人たちとの交流は子どもたちもすごく楽しそうだった。体験による学習はもちろん、近隣に住む当事者の方と知り合えたことが良かったです。

先生



わけへだてなくみんなまで交流できてよかった。自分たち自身も障害のことや近所に住む当事者のことを知れてよかった。もっと多くの人に疑似体験をしてもらえたらいいと思う。

民生委員



・ゲームは小学生の時にしたことがあってよかった。かわいい小学生と一緒に遊んで楽しかった。
・子どもたちと楽しそうにしながら、いつもと違う一面を見れたり、本人のことを子どもたちに知ってもらえたので参加してとても良かったです。

当事者

当事者親



体験を通して知る当事者の感覚や当事者との交流は、子どもたちにとって初めてのことで、楽しさだけでなく戸惑いや不安を感じた点もあったかと思いますが、今までにない多くの学びがあったのではないのでしょうか。社協では地域共生社会の実現に向けて、「出会う・知り合う・学び合う」循環型福祉学習として様々な機会を提供していきます。